

私はこんな風に使っています! 石灰窒素

石灰窒素は誕生して百有余年、永年にわたり沢山の方々にご愛顧いただいておりますが、時が移り行くなかで石灰窒素の効能や効果的な使い方が忘れられてきているように思われます。そのなかで読者の皆さまから「石灰窒素の使用事例を知りたい」などのご意見が多数寄せられました。

弊会では、多くの使用事例を紹介するため、会員各社から取材の協力を得ながら最近の使用事例を紹介することで要望に応えたいと考え、本コーナーを設けました。どうか一読いただき、石灰窒素の多機能ぶりをご理解いただければ幸いです。

末筆になりましたが、寄稿いただきました皆さまに心から感謝申し上げます。

(日本石灰窒素工業会)

農家の石灰窒素使用体験記

石灰窒素の休眠覚醒効果によるノビエ対策の試験をしました

秋田県大仙市 絹川さん

絹川さんは、J A秋田おばこ「おいしい米コンクール」の初代チャンピオンで、「おばこの匠」に認定されています。土づくりとして、10 a 当たり稲わら600kgに対して石灰窒素40kgを施用し、稲わら腐熟を行っています。同時にノビエ対策としても使用しています。その結果、収量も食味も良好で、肥料施用量が削減でき、浮きわらが少なくなり、ノビエも減ったと話しています。

今回、あらためて、石灰窒素によるノビエの休眠覚醒試験を絹川さんの圃場で行っていただきました。稲わら

全量還元で10月中旬に石灰窒素を10 a 当たり40kg散布しました。平成27年は、散布後の天候が悪く、秋の耕起ができなかったため、春に耕起しました。基肥には、従来どおり有機質肥料を施用し、それ以外に化成肥料(N 14%)を施用していますが、10 a 当たり50kgを20kgに減量しました。その結果、写真(6月21日に撮影)のとおり、石灰窒素無施用区では随所にノビエがみられましたが、石灰窒素施用区ではノビエがみられませんでした。この試験は、J A秋田おばこ南外支店も参加して行われ



石灰窒素施用(6月21日撮影)



石灰窒素無施用(6月21日撮影)

ており、近隣農家による検討会を開催しました。今後、秋に行うJAの営農相談会でこの結果を紹介したいと考えています。

絹川さんは「農薬の散布回数も減り、作業面でもコスト面でも助かっています」とコメントしており、今後、

石灰窒素のノビエの休眠覚醒効果と、稲わら腐熟促進による土づくり効果を組み合わせた技術として普及を進めていきたいと考えています。

(記：デンカ㈱東北支店 佐藤恵一)

キュウリ栽培でネコブセンチュウ防除と省力に役立っています

福島県伊達市 渡辺さん

渡辺さんは、福島県伊達市でご家族とハウスキュウリ15a、シュンギク10a、水稲70a、モモ50a、カキ40aと多くの作物を栽培されています。

渡辺さんのメインとなる作物は、ハウスでの夏秋キュウリ栽培です。6月からシュンギク定植前の11月まで、雨よけ栽培で収穫をされています。

石灰窒素は5月の定植前に、元肥として60kg/10aを施肥されています。長期間の収穫で一番の天敵は土壌病害虫であり、ネコブセンチュウやホモブシス根腐病など問題はつきないとのことでした。

石灰窒素を使うようになった理由は、ネコブセンチュウ対策と、労力軽減並びにコスト削減を見込んでのことです。キュウリで多発しているセンチュウ対策は、石灰

窒素と土壌消毒剤を併用しても、完全には治まらないのが現状ではあります。しかし、労力軽減とコストパフォーマンスの両面で石灰窒素は非常に優れていると感じ、使用面積を増やしたそうです。

キュウリの収穫中、常に窒素成分を切らさないようにするので、石灰窒素の緩効性窒素は追肥までのあいだ効果があり、省力と肥料コスト削減に役立っているそうです。加えて収穫中の成り疲れ防止にもなるとのことでした。渡辺さんは、現状の石灰窒素を利用したキュウリ栽培に多くのメリットを感じておられました。将来的に、センチュウへの防除効果がもっと高くなることを期待しながら、利用し続けたいとのことでした。

(記：日本カーバイド工業㈱ 富山)

使い続けて約40年、稲わら腐熟には石灰窒素が欠かせません

長野県上伊那 有賀さん

周囲を山に囲まれ、緩やかな傾斜が広がる長野県上伊那地域で元JA職員の有賀和幸さんは、水稲50aのほか、さまざまな野菜を栽培されています。

この地域では、稲わらを腐熟させるために石灰窒素を使うことが習慣化されていて、有賀さんも農業を始めた当初から40年以上にわたり石灰窒素を使い続けています。

そのためか、この地域の水稲の収量は630～640kg/10aと長野県のほかの地区よりも収量が多い傾向があるそうです。

有賀さんは「秋口に石灰窒素で稲わらのすき込みを行うと有機物が分解されて土づくりができ、安心して化学肥料を入れることができます。最近はいろんな資材が多く出てきていますが、石灰窒素と同じ効果を持っているものはないですね」とおっしゃっていました。

有賀さんは現在、JA菜園という大規模な圃場のCEO(最高経営責任者)としても活動されています。JA菜園では、アスパラガス、ネギなどを栽培しており、アスパラガスにはネズミ除け、ネギには収穫残渣のすき

込みに石灰窒素が使われています。

稲わら腐熟や残渣すき込みに石灰窒素を使用している有賀さん。今後は「大麦栽培時の除草やこの地区で最近問題となっている漏生イネによるコンタミ対策として、石灰窒素を使用することを検討したい」とのことです。

(記：片倉コープアグリ㈱ 金井里紗)



収穫間近の田んぼと有賀さん